

同窓会

の

# チカラ

同窓会のための情報誌

2013

特集●同窓会と当世婚活事情

- ・大阪府立鳳高等学校鳳友会「むすびの会」
- ・長野県上田染谷丘高等学校同窓会結婚相談所

紹介●同窓会活動紹介

- ・恩師のもとに相集う：慶應義塾大学石川明研究会 OB 会
- ・先生に乾杯：姫路市立姫路高等学校バドミントン部
- ・土曜セミナー：兵庫県立明石高等学校同窓会

リレー連載●私と同窓会

わが学び舎

- ・滋賀県／近江兄弟社学園

*Our Proud*

滋賀県／近江兄弟社学園／教育会館・ハイド記念館  
(1931年竣工／木造平屋一部2階建、瓦葺／登録有形文化財〔建造物〕)

Vol. 5

## はじめに

## 株式会社サラト



株式会社サラト・代表取締役  
福田 裕一（ふくだ ゆういち）

「仰げば尊し我が師の恩」は  
旧いのだろうか？

「同窓会のチカラ」第五号（二〇一三年版）  
をお届けいたします。

長引く不況の下、昨今社会のさまざまなレベルのさまざまな事柄が、単に時の流れに従って起こる変化とは違う変化を見せているように見受けられます。新たなコト・モノが生まれる一方で、今までのコト・モノが消えてゆく、あるいは変容してゆく、というのは世の常ではありまじょうが、それがはつきりとした姿を見せ始めているようにも見えます。

それは学校等の教育分野でも例外ではありません。また同時に学校と不即不離の関係にある「同窓会」も、少しづつですが変容の兆しを見せています。そうしたなかで小誌第五号では、同窓会の行なっている活動に今までは少し違う点を見いだし、実際に活動している方々にお話をうかがいました。

### 「結婚相談所」の運営を通して 地域社会への貢献を果たす

一つは、特集として採り上げた「当世婚活事情」で、同窓会が「結婚相談所」として機能活動する、というものです。代表例として大阪と長野の二校の同窓会の活動を取材しました。両会に共通するのは「地域社会貢献」ということです。今までは同窓会はあくまで会員相互の親睦と母校発展への寄与を目的とした、卒業生ならびに旧職員で構成された存在でした。今でも大部分の同窓会はそうしたものだと思われています。しかし、学校が地域全体にかかわっていることは明白ですし、同窓会が一歩踏み

出て、学校同様、地域を視野に入れたとき新たな活動領域があることに気付くのではないのでしょうか。

少子高齢化が現実となりつつある現在、未婚率・非婚率の高さが社会問題となっています。この理由はさまざまでしょうが、地方では特にこの問題が深刻だと聞いています。同窓会というのは縦横の繋がりを軸に成立している組織、言い換えれば母校という絆で結ばれた組織ですから、見方によっては「結婚相談所」としては最もふさわしいポジションにいる、とも言えます。そしてそれを具体的に展開しているのが今回ご紹介する二つの同窓会です。もちろんこれは口で言うほど簡単な事業ではありません。あくまで同窓会運営者のボランティア精神に支えられているのが実情でしょう。しかしそこには地域のため、次代のためという大きな「視点」があり、それが活動を押し進める原動力になっていることは間違いないところです。学校とは何の関係もない「結婚相談所」という活動をするに對する風当たりもあるかもしれません。しかし「地域とともにある同窓会」という概念は、おそらくはこれからの社会で求められる重要な要素ではないかと思うのです。

### 小規模で見通しのよい 「同窓会」の原点

今ひとつは「恩師への感謝」という視点です。何をいまさら古めかしいことを、という考えが今の若い人には多いように見受けられます。これが同窓会員の減少や、それに伴う同窓会の収入減少、ひいては活

動することの出来ない同窓会に繋がっているのではないのでしょうか。価値観の変化と言えばそれまでのことですが、人格形成と学習の基本姿勢を形作る機関である学校の意義を今一度確かめるためにも、同窓会は機能できるはずですよ。つまり学校の延長として、同窓会は卒業生に対し精神的拠り所としてあるものではないのでしょうか。それがなぜうまく行かなくなったのか、どうしたら同窓会本来の意義を取戻せるのか、無論答は簡単には出ません。

本誌では一般的な同窓会とは別の、クラスあるいはゼミなど小規模の集団が自主的に作り上げた「同窓会」を採り上げました。「慶應義塾大学法学部法律学科・石川明研究会OB会」は一人の先生のゼミのOBの集まりです。また「姫路市立姫路高等学校・バドミントン部」は、顧問の先生の退官記念祝賀会のレポートです。前者は毎年恩師の誕生日に合わせて総会と懇親会を開き、家族同伴の参加も可というものです。後者は恩師の退官時の一回だけの集まりですが、多くの年代から成りますし、これを契機に発展する可能性もあります。いずれも恩師のもとに集い、学恩を謝すという精神に変わりはありません。もしかしたら、今現在最も必要な要素かもしれない「恩師」の存在や「学恩」を感じとれる精神について考えさせられる事例かと思えます。

私共サラトは同窓会のお手伝いをしていく会社です。新しい形の同窓会、ユニークな形の同窓会を、わずかなページではありませんが、情報としてご紹介しております。以下に記します記事が、何らかの参考ともなれば幸いです。■

# 同窓会と婚活 1

## 大阪府立鳳高等学校鳳友会 むすびの会

地域社会の発展と同窓会の役割を考える



●連絡先  
大阪府立鳳高等学校鳳友会  
〒593-8317  
大阪府堺市西区原田150  
Tel & Fax: 072-271-1005  
(火・木曜日 10:00 ~ 15:00)  
eメール  
chinunourawa-houyuu@iris.ocn.ne.jp



大阪府立鳳高等学校鳳友会前会長  
嶋田 祐史 (しまだ・さちふみ) 氏

●大阪府立鳳高等学校の鳳友会では、卒業生を中心とした「むすびの会」を創出し、男女の出会いの場を設けてきた。その発案者で前鳳友会長の嶋田祐史氏に、活動の具体的な内容と、鳳友会が「婚活」支援を行うことの意味を聞いた。

「むすびの会」は、私が鳳友会長をしてきた二〇〇九年、若い人を鳳友会活動に参加して頂くようとして始めたものです。その当時、いくつかの高等学校で同様の事例があり、若い会員を増やすにはいい仕組みに思えました。最近では若い人の鳳友会に対する関心が低く会費の集まりも芳しくない状態で、少しでも鳳友会の活性化を計りたいというのが「むすびの会」を考えだした動機です。

最初は鳳高校の卒業生を対象として始めた結婚相談所ですが、現実にはあまり人が集まらない。そこで卒業生の親戚や紹介まで範囲を広げまして、登録者は現在五十名ほどです。内訳は女性が四分の三で、昭和二十一年生まれの方も幾人かおられます。会員の情報はファイル化されて、会員のみ閲覧が出来ます。また以前は年に一度、堺市内のレストランで食事を開き、出会いの機会を設けたりもしておりました。これは鳳友会会報に告知を載せるなど、活発に展開して参りましたが、ここ二三年は幾分沈滞気味です。

同窓会というのは言うまでもなく学校を支援する組織です。その考えからすると結婚相談所というのはなじみにくい。目的は同窓会の発展にあったとしても、同窓会として積極的に関与していくのは難しいですね。いきおい有志、つまりボランティア

の活動ということになります。はなはだ言いにくいことではありますが、先の食事会にせよ、あるいは事務所や窓口などの開設にせよコストがかかります。その費用は結局持ち出しになるわけです。登録料などではどうも足りないかもしれません。現在は私の経営しております会社に窓口を設け、鳳高校の卒業生である社員に、結婚相談の諸々のことを担当してもらっています。しかし本業もありますので負担が大きく、現状は事実上開店休業の状態です。

いずれにしても「むすびの会」としては出会いの機会を設けることから、お見合い、更に成立まで責任をもってお手伝いする仕組みが出来ております。結婚までたどりついたのは現在までで二組です。このころは結婚相手を選ぶ範囲の狭い人が多いように思われますし、そもそも世の中全体から結婚し子供を育てようという気力が失われているように感じられます。これは社会的に大きな問題です。また一方で男女とも選り好みしすぎている。

今では鳳高校鳳友会の事業というよりは、私設の結婚相談所みたいなものですが、けれども同窓会というのは何も学校や卒業生のためだけにあるとは思いません。なにより地域社会というものがある。月並み



な言い方ではありませんが、身近な人生の先輩として、ささやかながら次代を担う方々のお手伝いをしたい、という気持ちがあります。しかし今現在は、右に述べましたように組織として正常な形を成していません。けれども折角始めたこの「むすびの会」は、既に鳳高校鳳友会を超えて、あるネットワークを形成しています。志のある方々の協力を得ながら、本来の目的に向かって進んで行きたいと願っています。■



▲堺市で開かれた「むすびの会」のお食事会。

# 同窓会と婚活<sup>2</sup>

## 長野県上田染谷丘高等学校 同窓会結婚相談所

結婚相談所として40年、浮かび上がる現在という世相

●長野県上田染谷丘高等学校の同窓会では、ユニークな結婚相談所を設けて既に四十年の歴史を誇る。その間、時代によって世相も様々変化してきたが、昨今の「婚活」と同窓会の支援とはどう違うものか、その内容を前同窓会長・川上貞子氏と役員宮澤英子氏に聞いた。

この上田染谷丘高等学校の同窓会結婚相談所は、昭和四十八年（一九七三）に始まり、以来四十年のあいだ継続して参りました。二代目の同窓会館新設の際に先輩たちが開所して、現在は同窓会百周年を記念して建てられた三代目の会館「そめやホール」内に設置されています。平成二十一年（二〇〇九）六月から、川上貞子が所長をつとめ、同窓会の重要な事業の一つである社会貢献事業として現在九名の相談員が活発に活動しています。

### 同窓会結婚相談所 という位置づけ

当結婚相談所の特徴は、社会貢献の観点から対象者を上田染谷丘高等学校出身者に限定せず、広く一般に開かれていていることでしょう。よきご縁を求めている方ならどなたでも登録できますし、現に登録されている方は日本中におられます。登録者数は常に変化しますので、はっきりとはもうしあげられませんが、おおよそ二千五百人くらいです。

登録者は、毎月二回開かれる相談日に出席して相談員と話し合い、希望条件等を聞いた上で複数の相談員が適当と思われる方を登録者の中から数名選び、ご紹介する

というのが基本です。一度に無制限に情報を公開することはいたしません。条件が合えば相談員がお見合いの席をセッティングします。相談からお見合い、話が進展した場合には双方の間に立って結婚までを誠意と責任をもって見届けます。上田市のあたりでは婚約が成立しますと「おふるしき」と言いまして、風呂敷を女性の家に届ける風習があります。この風呂敷を女性の側が受け取れば婚約が確認されるというものです。ちょっと結納に似た儀式ですが、この時に風呂敷を持参する役目なども相談員が担います。

この結婚相談所では、他の相談所と同じように登録料やお見合いの手数料、また成立した際の成立料を頂いておりますが、極めて低廉で、実際に申し上げますとほとんど持ち出しの状態です。同窓会館の使用以外に運営に関して同窓会からの予算措置はありませんので、すべては相談員のボランティアで行われているわけです。しかし一人でも多くの方に良縁を、という相談員一人ひとりの精神が強力にこの事業を支えているのは事実ですし、それが社会貢献につながっていることは間違いないと私たちは信じています。

### 誰にでも開かれた 出会いの場への取り組み

登録に際しては、登録者の出身や学校などに制限はありません。実際に東京を始め全国からの申し込みがありますが、一番多いのは上田、佐久、更埴、長野の方です。ご自身が長野県出身の場合だけではなく、親が長野県や上田市周辺のご出身など、何

らかの地縁がある方が多いですね。月に二度の相談日には会館がいっぱいになるほどで、年々盛況になっていっているのは嬉しいことです。条件もさまざまですし、年齢も広範囲にわたりますので、事前の候補者選びには大変気をつかいます。機械的に条件だけを見て選ぶ、というわけにもいきませんから、直接面談した際のフイーリングや、書類には表れない事柄も相談員は把握につとめ、総合的に判断をします。ですので相談員の気苦労は大変なもので、奉仕の精神がなければとても勤まりません。そのぶん結婚まで到達した時の喜びは本当に大きいですね。



▲相談日の様子／出席者のさまざまな要望に親身に対応する相談員。



●連絡先

〒 386-8685 上田市上田西丘 1710  
長野県上田染谷丘高等学校 同窓会結婚相談所  
Tel & Fax : 0263-24-7293



左・川上貞子 (かわかみ・ていこ) 氏  
長野県上田染谷丘高等学校同窓会前会長  
右・宮澤英子 (みやざわ・えいこ) 氏  
長野県上田染谷丘高等学校同窓会／事務局担当

### 変わりゆく結婚観 変わりゆく結婚相談所

相談員の顔ぶれには変化もありますが、長年この事業に携わってきた中で、相談にお見えになる方の傾向といえますか、形が変わって来つつあるように思います。理由はさまざまですが、特に最近では結婚しない人が増えているようです。これに対して本人よりも親が気をもんで相談に見えるケースが非常に多くなりました。息子が都会に出て働いているけれど、一向に結婚する気配がない。先々家はどのようなのか、絶えてしまうのではないかと、という焦燥感から必死の思いで相談に来た、という親御さんに比べ、肝腎の息子さんに熱意がないなど、親子の対話不足が目につきます。またこれに似た状況として、子供が欲しいという理由でお見えになる年配の方もいる。跡継ぎが欲しいんですね。結果として非常に若い女性を求められる方が多い。でもこれは現実的には難しい。さらに候補者がたくさんいると思いついて、あれこれ迷ってしまう人がいます。ですからご紹介しても返事が遅くなる。私どもとしてはご本人が納得いくまでお相手を捜しますが、選り好みしすぎてチャンスを逃し、結



▲同窓会館／内部に結婚相談所を常設

局時間だけが過ぎてゆく、というケースも多々見られます。これは男女ともに言えることです。

全般的に男性に多いのは、マジメだが気が利かない、遠慮がち、決断力がない、相手の年齢や容姿にこだわる、という方ですね。女性の場合は、いわゆる高望みの人が多い。これは近年特に目立つ傾向です。その結果、誠意に欠ける印象を受けます。また男女とも、自分の条件を全て満たす人を求めがちです。気持はわかりますが、実際にはそういう人はまず居ないでしょう。他人と一緒にいるのが結婚ですから、互いに譲り合い、フィードバックを合わせる努力も必要です。もちろんどういう方にも、その意思を尊重して対応してはいますが、同時に相談員の方からいろいろと助言をすることも多いのです。近頃、この結婚相談所は、結婚相談所の枠を超えて、ほとんど人生相談所のように思えてきます。

このようにして結婚まで至るのは年間に数組です。二〇一一年はこれまでの最多、七組が成立しました。私どもの活動は営利を目的としておりませんし、この事業に対して一種の使命感を持たなくては続きません。十人十色の方々のいろいろな条件を考慮して、結婚に漕ぎ着けるまでには、言葉で言えないようなさまざまなことがあります。ですから結婚にまで至つ

たときの喜びはひとしおです。その後、送られて来たお手紙など拝見する時は、本当に相談員冥利につきる思いがします。

### 新しい時代にも求められる 新しい形の結婚相談所へ

上田染谷丘高等学校同窓会結婚相談所は、今まで手作業で行って来た情報管理とお見合いのセッティング作業などを、より正確でスピーディーなサービスを提供できるように電子化作業に取り組んでいます。そして社会貢献としての結婚相談所をこれまで以上に活発に進めていきたいと考えております。 ■



▲お見合いのセッティング風景

# 恩師のもとに相集う

## 慶應義塾大学法学部法律学科 石川明研究会 OB 会

毎年、恩師を囲んで開催される「授業」。  
よき出会いに感謝しつつ新たに学ぶの心。

共にむつみし幾年は 心に永くとどまらん

●慶應義塾大学法学部法律学科の石川明研究会OB会では、毎年十一月、恩師の誕生日にあわせてOB会総会を開き、先生を囲んでの懇親会を開催している。いわば大きなクラス会のようなものだが、このユニークな組織の内容を幹事長の三上氏と前幹事長の宮脇氏にうかがった。

### ゼミが生みだした 世代を超えたつながり

石川明先生は昭和四十二年（一九六七）に慶應義塾大学法学部教授となられ、平成六年（一九九四）に退職されました。この間、多くの学生が先生の指導を受け、法曹界また実業界に進み、それぞれに活躍しております。

このOB会は昭和三十八年（一九六三）三月卒業のゼミ生を第一期として、平成九年（一九九七）卒業の第三十五期までのOB八百七十七名と石川先生に大学院で教えを受けた六名から成ります。石川先生の退職を期に、それまで現役のゼミ生が担ってきたOB会（懇親会）を、新たに「石川明研究会OB会」として設立、OB自身の手で開催・運営することになりました。以来現在まで毎年先生の誕生日の直前の土曜日に開催しております。当日はOB会の総会で各種の報告その他があり、その後、場所をかえて懇親会となるのが通例です。懇親会にはOBの家族も参加できます。この「石川明研究会OB会」を設立する

にあたっては、OB会第十一期の宮脇邦彦が設立準備委員長として中心となりゼミの全てのOBに案内を出し、会員名簿を作成するなど尽力、今日のOB会の基礎を作り上げました。そして三年間にわたって検討を重ね、平成九年（一九九七）二月に正式に設立の運びとなったのです。

現在確認できている会員は七百六十余名です。みなさん仕事を持っておりませんが全員が一堂に会するということはありませんが、それでも日本中から駆けつけて互いに旧交を温め、先生と親しく語らう一時には、卒業年次を超えた強い絆を感じます。また先生との歓談は、現在の自分に対する励ましに思えますし、明日への力を得る大きな機会にもなっていると思います。

### 事務局に携わることで知る 先生とゼミのOBへの「気持」

毎年開催するOB会というのはあまり見かけないと思いますが、これは先生が現役でゼミをお持ちの時代からの延長で、それが組織化されたことですので、会員としては特に違和感はありません。ただ幹事は大変です。会員への連絡ひとつをとっても、連絡文の作成から印刷・発送などの作業があり、また会員の転居や転職などによる名簿のリニューアルなど、日常的に会の活動にタッチする必要があります。事務局のような専用の部屋などはありませんから、いきおい幹事長の自宅が事務局ということになり、各種の連絡に相当の時間



▲石川明先生を囲んで／2011年石川明研究室OB会懇親会にて



左・宮脇 邦彦（みやわき・くにひこ）氏 [11期/前幹事長]  
東洋エンジニアリング株式会社勤務  
右・三上 威彦（みかみ・たけひこ）氏 [13期/幹事長]  
慶應義塾大学法科大学院教授



毎年東京で開催されるOB会総会・懇親会とは別に、石川先生が地方に行かれた際に、その地域でのOB会を臨時に開催

### OB会の現在と これからのOB会について

をとられるのが実際です。しかしながら辞めようと思ったことはありません。それは言うまでもなく先生を敬慕する気持の強さ故に他なりません。また懇親会の参加者が喜ぶ様子を見ておると、月並みな言い方ですが、苦勞の甲斐があったと毎回思います。加えて、仕事を持っているにもかかわらず事務局を手伝ってくれる方が多い。しかも年齢を超えて。これは事務局を預かる者としては大変に嬉しいことです。

幹事長の任期は二年で三選は不可というのが取り決めですが、幹事長職は目立たぬ激職ですから二期でも大変です。そして裏方としてできることの限界が見えてきたこともあって、平成十三年（二〇〇一）から名簿データ管理、名簿印刷・発送などの業務をサラトさんに発注、現在はOB会本来の活動に専念できるようになりました。

▲石川明先生 / 2011年石川明研究室OB会懇親会にて

### 石川明先生略年譜

- 昭和6年 (1931) 東京に生まれる
- 昭和31年 (1956) 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了(法学修士) / 慶應義塾大学法学部助手
- 昭和34年 (1959) 10月～昭和36年(1961)2月 DAAD留学生としてドイツ・ミュンヘン大学留学
- 昭和36年 (1961) 慶應義塾大学法学部助教授
- 昭和41年 (1966) 法学博士(慶應義塾大学)
- 昭和42年 (1967) 慶應義塾大学法学部教授
- 昭和45年 (1970) 4月～昭和45年9月 DAADの再招聘によりドイツ・ザールラント大学留学
- 昭和50年 (1975) 7月～昭和50年12月 アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の奨学生としてドイツ・ケルン大学(手続法研究所)留学 / その後、数回の再招聘を受ける。
- 昭和60年 (1985) 名誉法学博士(ドイツ・ケルン大学)
- 平成元年 (1989) 名誉法学博士(ドイツ・ザールラント大学)
- 平成6年 (1994) 慶應義塾大学を退職
- 平成17年 (2005) 法律名誉博士(中華人民共和国・華東政法学院)

昔話になりますが、石川ゼミでは「OBによる後輩の指導」が伝統でした。一週間弱の合宿などでも、参加されたOBの方々による指導があります。合宿は三年生全員が参加、一日大体九時間の「授業」があり、大いに鍛えられたものです。しかもそれが毎年連綿として続くわけです。こういうところからも、期を超えた「つながり」が生まれます。

することがあります。また期ごとのOB会もあります。更に法学部法律学科の卒業生ですから、法曹界に籍を置くOB(裁判官や検事、弁護士)による、いわば職業別OB会というものもあります。こうしてみると、石川ゼミの連帯感というものは非常に強い。この連帯感がOB会会員の力の源の一つになっているのは間違いないところでしょう。



▲石川明先生と未来の法律家・実業家

しかしながら昨今、学生の大学のゼミや先生に対する意識に変化を感じます。一般論ですが、同じゼミに属しているわけですから互いのコミュニケーションに苦勞はありません。ただ横のつながりには問題はありませんが、縦の関係も積極的に開発して欲しいですね。法曹界だけではなく社会に身を置けば、自然と他業種の方々とお会いする機会が増えます。これを充分に活用し、ゼミで学んだことを社会でしっかり役立てて欲しいと思います。

# 先生に乾杯

## 姫路市立姫路高等学校 バドミントン部

### 部活顧問の先生の還暦退官に 教え子が開いた謝恩の祝賀会



左から

佐々木 照子 (ささき・てるこ) 氏 (38期)

福田 恵子 (ふくだ・けいこ) 氏 (39期)

松浦 正宗 (まつうら・まさのり) 氏 (38期)



● 姫路市立姫路高等学校校長・高田明先生の退官記念祝賀会が二〇二二年四月二十九日に開催された。バドミントン部のOBによる祝賀会というユニークな催しの開催に向けて奮闘した三人のOBに、バドミントン部と高田先生との長年にわたる交流を聞いた。

私たちが市立姫路高等学校に入学したとき、高田先生はまだ三十歳くらいで古典を担当されていました。授業と同様バドミントンの指導も熱心で、しかも分かりやすく丁寧なものだったことを覚えています。

その当時姫路では、バドミントンは高校から始める人がほとんどでした。その分、中学からやってきた阪神地区の学生よりはハンデがあります。ですから練習は必死でした。学校内でも一番厳しいクラブで有名でした。一方で指導する先生も大変です。ご承知の通りスポーツは指導者次第というところがあります。技術と情熱に加え、教育の一環としての位置づけも必要でしょう。それでも勝たなくてもいいという勝負はありません。そういう点でも高田先



▲祝賀会での高田明先生ご夫妻

生は私たちが熱心に指導して下さったと思います。手前味噌ですが、姫路高校は姫路では最強の一枚に数えられていました。無論そのためにはとにかく練習です。その厳しさ辛さは今でも覚えています。夏休みなど強化練習が連日ありまして、そこでOBの方々から厳しい指導を受けます。思い出すのはその辛い時のことばかりなんです。が、不思議なことに今ではその辛さも懐かしい思い出になっています。これも先生のお人柄と指導法の巧みさがあってのことだったのだと思います。

先生とそこご家族のお人柄がわかるエピソードがあります。先生は毎年元旦にOBや在校生をご自宅に招いてくださるのですが、その日は朝から晩まで人が途切れることなく賑やかに過ごしたものでした。今から考えるとそれがOB会でした。毎年、この集りの準備をするご家族の方々はさぞやご迷惑だったことでしょう。それでもいつも暖かく迎えてくださったことを今も覚えています。

元旦恒例の「OB会」は、先生が教育委員会に異動された時に終わりましたが、先生はその後姫路高校に校長として戻られ、二〇二二年三月末をもって退官となりました。二十三年にわたってバドミントン部の顧問を務められた先生のご恩に対し「記念祝賀会」開催の気運が高まり、OB有志が奔走して様々な働きかけや話し合いを重ね、ようやく実現に漕ぎ着けました。

一口に祝賀会と言いますが、二十三年にわたる教え子に間違いなく案内を出し出欠を確認するのは思った以上に大変です。料理の内容や会場の広さなど、出席者が



▲祝賀会に集ったバドミントン部のOB

決まらなければ何も決まりません。そこで肝腎なこうした作業はサラトさんに委ねました。結果としてそれが大正解。普通は裏方に徹する幹事たちも一人の出席者として会を楽しむことができました。

今回の祝賀会の最大の収穫は、この催しをきっかけに同学年同士の交流が増え、久しく会わなかった人たちとのやりとりが復活したことです。そしてそこから定期的な同窓会への動きが出ています。バドミントン部OBとしての集まりは多分これが最後でしょう。しかし祝賀会をきっかけとして同窓の繋がりが再び生まれつつあります。お世話になり敬愛する先生の退官記念祝賀会が、今新しい関係を作り上げようとしていることに、改めて言葉にならない感謝と喜びを感じています。

先生ありがとうございました。



# 私と同窓会

田中 瑩一

発信する名簿、語りかける名簿



島根大学教育学部同窓会・前会長  
田中 瑩一（たなか・えいいち）氏  
（昭和31年卒）

昨年三月十一日の東日本大震災をきっかけに、ふだん日常の底に沈んでいたことに再考をせまられた事例がいろいろ指摘されていますが、ちょうど今回の同窓会名簿の改訂作業が進んでいる折でもあった関係で、私は「名簿」というものの意味について考えさせられる場面にはしばしば出合ったように思います。

たとえば、避難所に張り出された名簿を、折り重なるようにして見つめる人々を映し出したニュース映像が強く記憶に残っています。「名簿」の発信力の大きいことに驚きました。

「アララギ」の六月号にはこんな投稿歌が載っていました。

被災地の友の誰彼いかにあらむ  
頁を繰りてその名を探す

（西宮 土本綾子）  
全国でこの時期ほどひんぱんに「名簿」が紐解かれた時はなかったのではないでしょう。

新聞記事の場合、震災から日が浅い間は、人の名前と人数が関心の的でした。やがて「誰彼」の行動が語られるようになりました。助かっていたいきさつ、助からなかった（あるいは助け得なかった）いきさつ・・・そして最近では、その後の人と人との関わりのあるようを語り伝えることに力が注がれているように思われます。

震災関連ではありませんが、十月に放映されたTVルポにこんなシーンがありました。シロアリの入り込んだお堂を修理しようと床下に潜り込んだ村人が一枚の板を見つめます。板には前回の修理時の寄付者名が墨書されていました。黙って読み進む村人たち。一人の古老がつぶやきます。

「これ、うちのひいじいさんじゃ。〇〇の子が〇〇。その子が〇〇。その子がわしじゃけえ・・・。」

別の一人が静かに言います。  
「昔の人が一つの目標に心を向けて力を合わせてきたことがよく分かる」

床下の板に記されていたのは単なる名前の羅列ではありませんでした。先人たちの強い意志を発信する「名簿」なのでした。それぞれに暮しの問題を抱えながらも、お堂を守ることを一つの目標として共有しあう、昔の村人から今の村人に語りかける強いつながり・・・お堂の修復事業は、その「つながり」を心にとめることで確実に進んで行くにちがいないと思われました。人は「未来に後ずさりして進んで行く」と言われますが、その時、「名簿」が有力な道しるべとなる場合のあることに気づかされます。

震災は「絆」という価値観を再認識させてくれました。「絆」とは「絶つことの出来ない深いつながり」の謂い

だと言います。そこが、「ゆるいつながり」を是とする最近の価値観とずれるところでもあり、また逆に清涼剤でもあるわけですが、「嫌でも切れないつながり」と受け取るか、「一定の価値を持つて意味づけられたつながり」と受け取るか、時代は次第に後者へ軸足を移しているように思われます。人生の一時期をこの学窓で共有した「つながり」を基盤に、価値ある発信と語りかけを続ける拠点として。「同窓会名簿」はこれからもいつそう生かされて行くにちがいません。

（この文章は平成二十四年九月発行の同窓会名簿に掲載されたものです）

## 筆者プロフィール

昭和9年 島根県松江市生まれ  
昭和21年 島根師範附属小学校卒業  
昭和24年 旧制松江中学併設中学校卒業  
昭和27年 出雲高等学校卒業  
昭和31年 島根大学教育学部卒業  
島根県立三刀屋高等学校、松江南高等学校教諭  
島根大学、広島文教女子大学教授  
現在は島根大学名誉教授  
著書に『表現研究と国語教育』『口承文芸の表現研究』『伝承怪異譚』

# 土曜セミナー

## 兵庫県立明石高等学校同窓会 (自彊会)

### 母校支援こそ同窓会の“生きる道” 母校支援事業「土曜セミナー」の実施



●連絡先  
同窓会（自彊会）事務局  
〒673-8585  
兵庫県明石市荷山町 1744 番地  
Tel & Fax 078-913-6554



竹内信六（たけうち・しんろく）氏  
（高13回生）  
兵庫県立明石高等学校同窓会・副会長

●同窓会の活動にはさまざまなものがあるが、兵庫県立明石高等学校同窓会（自彊会）では、学校本来の仕事である「授業・勉強」への直接的なサポートとして各種セミナーを継続的に実施、同窓会事業として明確に位置づけ、更に発展させる方向で押し進めている。

長く続いた総合選抜制度入試が終焉の兆しを見せ、新たな入試制度の導入が検討され始めた頃、平成十五年四月、五十八回生の入学を機に制服を一新し「明高復活」の声を第十七代校長大越智典彦先生（高十五回生）が発せられました。同窓会としても全面的に支援することが役員会の満場一致で決定され、「土曜セミナー」はスタートしました。学校五日制に伴い、先生方がしたくてもできないことも「同窓会ならできないのではないか」、そんな視点からやれることを模索しました。

同窓会会則第二条に、「本会は、会員相互の親睦をはかり、母校の発展に寄与することを目的とする」と掲げています。過ぎ去った青春時代を懐かしむだけの同窓会では、目的の半分しか達成できていない、母校（後輩）への支援を充分に行つてこそ「今、未来に生きる同窓会」となり、その存在意義が生まれ、“必要な同窓会”として、“生きる道”が見いだせると考えています。

取り組みの概要を挙げてみました。セミナー講座を二つ設けています。まず、学習講座として、一・二年生の希望者を集めた補習授業（英数国）を明高卒業の方を先生として探し担当してもらいました。また、三年生には代々木ゼミナールの衛星講座

（五教科）を提供し、年二回の全国模試を低料金（千円）で受験できるようにしています。

さらに体験講座を設け、「先輩訪問」と「大学見学」に取り組みました。各界で活躍する先輩を訪ね、同じ自彊が丘で学んだ先輩の姿から「大きな夢と希望」を抱いてもらいたい」と願つて行つていきます。京都大学名誉教授山川裕巳氏（高五回生）、日弁連の元幹事長浜口臣邦氏（高五回生）、甲南大教授橋幸男氏（高十三回生）、千代田テクノル社長細田敏和氏（高十四回生）、同志社大学教授上野谷加代子氏（高二十回生）、大阪市立大教授米沢広一氏（高二十一回生）、北海道大学教授小池孝良氏（高二十四回生）、元参議院議員佐々木知子氏（高二十五回生）、岡山大学教授山下登氏（高二十八回生）、関学大教授森田雅也氏（高二十九回生）、慶応大教授寺坂宏一氏（高三十二回生）楽天会長の三木浩史氏（高三十五回生）ら十名を超える先輩を訪問しています。また、難関大学



▲兵庫県立明石高等学校正門



▲セミナー風景  
▼衛星講座受講



▲関西学院大学にて

のオープンキャンパスに後輩たちを参加させ、その大学で教鞭を執っている先輩のミニ講義に耳を傾け、そこで学んでいる明高OB、OGにキャンパスを案内してもらい、大学受験へのモチベーションアップに努める取り組みも行っています。今後新しい企画を模索し、伝統校の同窓会だからできる行事を行つていくことで、今に生きる同窓会として発展したいと願っています。



近江兄弟社学園同窓会  
(Ohmi Brotherhood Schools Alumni)  
http://www.vories-spirit.jp/  
〒 523-0851 滋賀県近江八幡市市井町 177  
TEL (0748) 32-3444 FAX (0748) 32-3974

# わが学び舎

## 近江兄弟社学園同窓会

創立者ヴォーリス夫妻の精神を継承し  
イエス・キリストを模範とする人間教育の 90 年

### 沿革

近江兄弟社学園は、ウィリアム・メルル・ヴォーリスの妻・一柳満喜子が大正九年（一九二〇）自宅に開設したプレイグラウンドに始まる。翌年「清友園」を開設し保育を開始、大正十年（一九二二）「清友園幼稚園」として県の認可を得、昭和五年（一九三〇）園内に「保母養成所」を設置、昭和八年（一九三三）以降「近江勤労女学校」（後の近江兄弟社女学校）「母親教室」「近江家政塾」「八幡英語学校」「工場女子従業員教育」などを開設する。そして昭和十二年（一九三七）には奇跡の人ヘレン・ケラー女史が来校。

戦時中、ヴォーリス夫妻は軽井沢に幽閉されていたが、学園そのものは教育を継続しており、終戦とともに学園に復帰、戦後の昭和二十二年（一九四七）「近江兄弟社小学校・中学校を、翌年には高等学校を設置する（現在は併設型中高一貫校）。昭和二十六年（一九五二）幼稚園から高等学校までを統合した「学校法人近江兄弟社学



▲学園本館

園」を設置する。昭和四十五年（一九七〇）「近江兄弟社学園同窓会」が発足。平成十九年（二〇〇七）同志社大学とキリスト教主義連携協定を、立命館大学文学部はじめ大学と高大連携協定を締結する。  
著名な卒業生には騎手の福永祐一、歌手の岡林信康、政治家の細野豪志、徳永久志、有村治子などがある。

### 表紙写真・解説

#### 近江兄弟社学園教育会館・ハイド記念館

いずれも昭和六年（一九三一）の建設で、正面が教育会館、右にわずかに見えているのがハイド記念館。木造平屋一部二階建瓦葺で、平成十二年（二〇〇〇）に国の登録有形文化財「建造物」に指定される。両館とも学園内で最も古い建物。教育会館はアメリカ人 A・A・ハイドの寄附を受けて、学園創設者ヴォーリスが設計したもので、かつて礼拝堂として使われていた。現在は小学校の教育活動や様々な催しに使用されている。ハイド記念館は同じくヴォーリスの設計で、二〇〇三年まで幼稚園舎として使われていた。現在は、創立者ゆかりの品や絵画やパネルなどを展示して一般にも公開されている。



▲ハイド記念館・階段

### ウィリアム・メルル・ヴォーリス



▲ヴォーリス夫妻

一八八〇年、アメリカ合衆国に生まれる。明治三十八年（一九〇五）滋賀県立商業学校（現滋賀県立八幡商業高等学校）の英語科教師として来日、明治四十一年（一九〇八）京都で建築設計監督事務所を開業する。大正七年（一九一八）結核療養所「近江療養院」（現ヴォーリス記念病院）を開設、翌年子爵令嬢一柳満喜子と結婚。昭和十六年（一九四一）日本に帰化。昭和二十六年（一九五二）社会公共事業に対する功績により藍綬褒章を、昭和三十六年（一九六一）建築業界における功績により黄綬褒章を受ける。昭和三十九年（一九六四）永眠。享年八十三。没後、正五位に叙され、勲三等瑞宝章を受章。建築家として多くの優れた建築物を設計し、また妻満喜子とともに教育者として多くの日本人を育てた。ヴォーリスの精神は今も近江兄弟社学園の教育の中に脈々と受け継がれている。

同窓会幹事代行

Reフレンズ

同窓会幹事代行

「Re フレンズ」

同窓会活動をトータルサポートするサラトが提供する同窓会幹事代行サービスです。同窓会総会のお手伝いも可能ですのでお気軽にご相談下さい。

—— 「Re フレンズ」の特長 ——

●幹事様の雑務解消！

同窓会プロデュースプランナーが計画を立て、同窓会の案内状の発送、出欠管理、同窓会当日に必要な受付名簿作成まで同窓会の準備作業をすべて代行します。

●幹事様の同窓会準備費の立て替え0円

『Re フレンズ』では、同窓会の案内状や出欠はがきの印刷代も切手代の立て替えもすべてサラトが行います。

●案内状を出したくても住所がわからないケースにも対応

同窓会開催専用ホームページや同窓会の案内状の中で同級生に広く転居先不明者の情報を求め、新たな住所のまとめも代行します。

●同窓会開催専用ホームページの開設

同窓会開催専用ホームページの開設・運営も代行します。同窓会参加予定者をチェックしたり、掲示板で久しぶりの友達と話し話を花を咲かせたり、同窓会気分が一段と盛り上がりれば参加者アップにもつながります。パスワードでログインするためセキュリティも万全。携帯サイトもあります。

お申し込み・お問い合わせ

TEL 0120-953-070

受付時間：月～金 9:30～12:00 / 13:00～17:00  
詳しくは小社のホームページをご覧ください。

「Re フレンズ」  
2つのパッケージプランを  
ご用意いたしました。

目的、同窓会開催地に合わせて  
お選びいただけます。

👑 お気軽パック

- 会場は自分たちで決めたい、会費を安くおさめたい幹事様に。
- 出席者数を増やし、手間無く簡単に同窓会を開くための事前準備を代行します。

👑 おまかせパック

- すべておまかせ。ご多忙な幹事様に。
- 会場の手配、案内状の作成・発送等の事前準備から当日の受付作業までをすべて代行するフルサポートプラン。

お知らせ

●制服リカちゃんに

新しい仲間が増えました

毎年ご好評をいただいています「オリジナル制服リカちゃん」に新しい仲間が増えました。今年（平成二十五年）は五校の新しい仲間が加わります。完成順に「宮城県第三女子高校（現・仙台三校高校）」「鹿児島県立鹿児島中央高校」「鹿児島県立鹿屋高校」「鹿児島県立国分高校」「秋田県立大館桂高校」です。

このうち宮城県第三女子高校は、女子校から共学に移行したことを機に、思い



宮城県第三女子高校

鹿児島中央高校

鹿屋高校

国分高校

大館桂高校

© TOMY

同窓会のチカラ 2013年号 / Vol. 5

(2013年4月発行)

編集・発行 株式会社サラト

本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

TEL 0120-138-000 ● FAX 0120-917-523

東京支社・〒101-0021 東京都千代田区外神田5-2-3

JR 外神田ビル6F

TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389

E-mail eigyo@salat.co.jp

URL : <http://www.salat.co.jp>

SALAT  
Salat Corporation

サラトは昨年（平成二十四年）、全国百七十一校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様に、心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

この制服リカちゃんは、製作に関するほとんどの作業をサラトが代行しております。また、製作経費も同窓会や学校からいただかずにおこなっています（今年の五校もです）。皆さんの学校でも「制服リカちゃん」にご興味がありましたら、お気軽にご相談ください。  
0120・138・000（代表）

出の女子校時代の制服をリカちゃんに  
着せて残す企画です。他の四校は学校の  
創立記念事業としての企画です。